

児童の実態

本学級の児童は、男女関係なく仲が良く、グループ活動でも積極的に交流している様子が見られる。しかし、授業中、相手の話を聞き終わるまでに話し始めたり、最後まで聞き終わらない間に次の話題へ移ろうとしたりする児童が多く、相手の話を最後まで聞こうとする意識が低い。また、進んで対話に臨もうとする児童が多い一方で、言葉で思いを伝えることに苦手意識を持っている児童も少なくない。

令和3年度の標準学力調査の結果では、『話すこと・聞くこと』の領域において、「話の中心を明確にするための話し手の工夫を捉えている」の出題の正答率は高く、話し手の工夫については気付いているが、「話し手が伝えたいことの中心を捉えている」、「相手に伝わるように、自分の考えを、理由を挙げながら話している」の出題の正答率は先の出題に比べると低い正答率であったことから、相手の話題の中心を理解する力、自分の考えを相手に伝える力に弱さが見られる。

単元デザイン

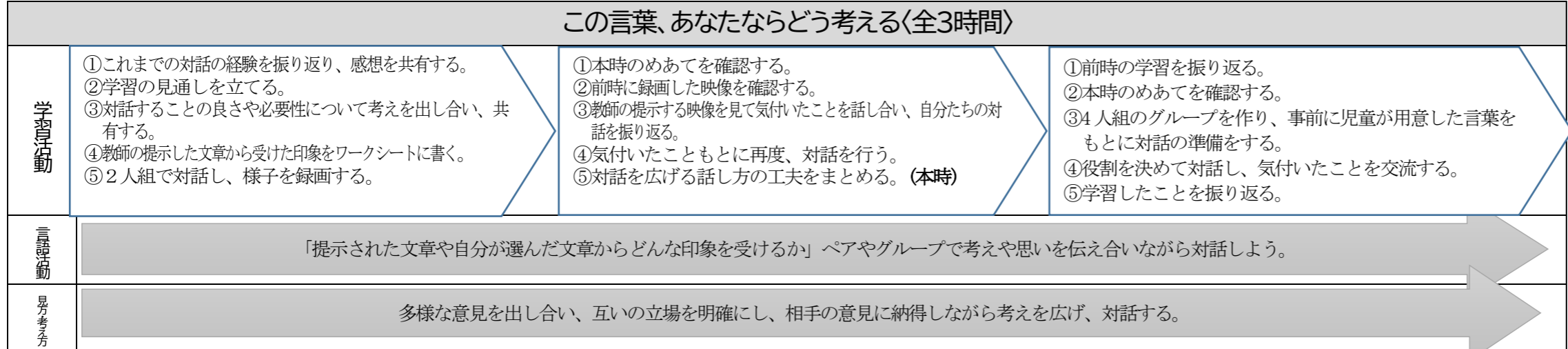
本単元の重点指導事項は、学習指導要領における〔思考力・判断力・表現力等〕の「A 話すこと・聞くこと」(1)オ「互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを上げたりまとめたりすること」である。この資質・能力が身に付くように、本単元では、異なる意見をもとに考えを広げようとする姿勢や、相手の考えやそのもとなる理由について尋ね合う力を養うことを重視している。本単元のみならず、様々な学習において、自他の考えや解釈を交流する場面を設定してきた。「事実と考えを区別しよう」では、資料から分かる事実と、それをもとにした自分の考えを区別する際に、友だちの考えを聞いて、同じ資料からでも意見の違いがあることを、交流した。自分と異なるものの見方や考え方を理解することは、多角的に物事を捉えるようになるための重要な契機となる。そこで、対話を通して異なる意見の人と交流するにはどのような点に気を付ければよいか、体験的に学ぶことができる本単元を設定した。

本時の第1時においては、対話の意義や対話することの良さを確認し、本単元の活動への意欲を持たせたい。また、後半では、教師が提示した文章に対してどんな印象を受けたのかをワークシートに書かせ、対話させる。その際に、対話するときに難しかった点、うまく対話が繋がらなかった点を確認しておくことで、次時の活動に繋げたい。第2時では、前時録画した映像をもとにグッドモデルと比較し、対話する際の工夫点を見つけ、活用する。その際、どのような言葉を遣うと対話が広がるか、相手と気持ちよく対話することができるかということを意識させながら、対話の際に遣うと良い言葉や、考えを広げるための話し方の工夫に気付かせたい。第3時では、前時の学習をもとに、4人程度のグループを設定し、役割を決め、児童が選んだ言葉で対話し、交流していく。対話においては互いの立場を明確にし、なぜそう思ったのかの理由をもとに考えを広めていくことが重要になってくる。特に、互いの意見が相違した場合、相手の意見を一度納得した上で理由を尋ねたり、自分の考えを述べたりして考えを広めていくことが重要である。そして本単元でつけてきた力を次の「問題を解決するために話し合おう」、「資料を見て考えたことを話そう」の学習につなげていきたい。年間を通して取り組んでいく中で、自分の考えの意図を明確にして伝える力を高めていきながら対話することの良さや会話することの楽しさを実感できるようにしていきたい。

研究主題に迫る手立て

安心できる学級・学校づくり～生徒指導の三機能を生かし、子どもの主体性を育てる～

- 【自己決定】話し合いの話題について、自分の考えや理由を持つことができるようにするために、ワークシートを用意する。
- 【自己存在感】自分の想像したことを、根拠をもって伝えられるようにするために、予めワークシートに理由を書くことで、思いや考えを伝えられるようにする。
- 【共感的人間関係】互いの立場を明確にしながら対話し、互いの良さを振り返ることができるように、ICTを活用する。



評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付いている。【(1)ア】 ・話し言葉と書き言葉の違いに気付いている。【(1)イ】	・「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や意図を明確にしながら話し合い、考えを広げたりまとめたりしている。【(1)オ】	・これまでに学習したことを振り返って学習課題を明確にし、学習課題に沿って、進んで話の内容が明確になるように、自分の考えを伝えようとしている。

単元の主な資質・能力

- 1・2年**
互いの話に関心を持ち、相手の発言を受けて話をつなぐこと。
- 3・4年**
互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめること。
- 5・6年**
互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすること。

単元の目標

- 【知識・技能】
 - ・言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付いている(1)ア
 - ・話し言葉と書き言葉の違いに気付いている。(1)イ
- 【思考・判断・表現】
 - ・互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすることができる。(1)オ
 - ・それぞれの立場から考えを伝えるなどして話し合うことができる。(2)ウ
- 【学びに向かう力、人間性等】
 - ・言葉がもつよさを認識するとともに、思いや考えを伝え合おうとすることができる。

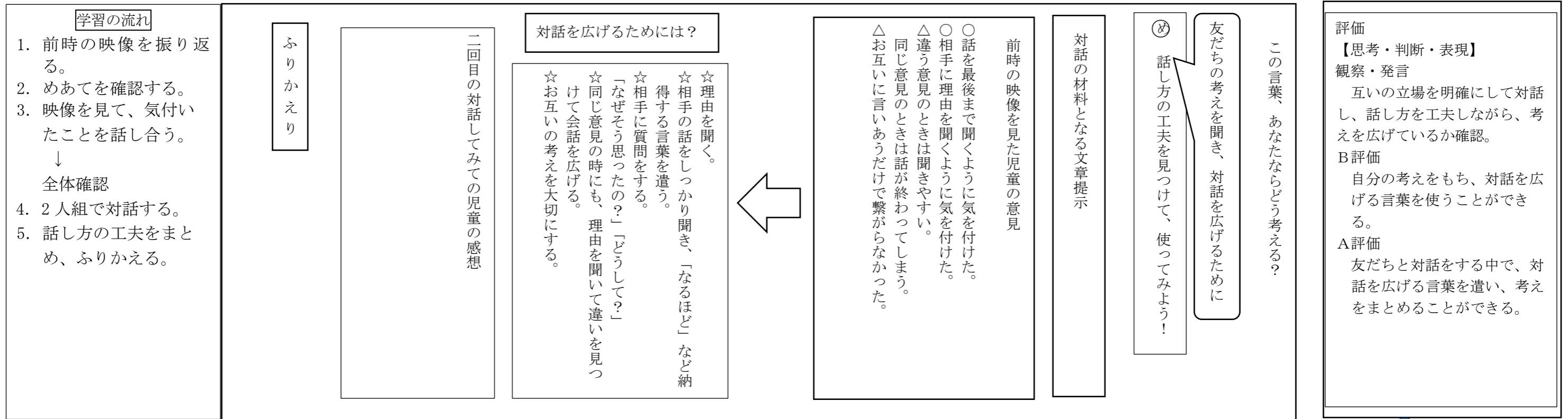
本単元終了時の目指す児童像

互いの立場を明確にし、話し方を工夫しながら相手の意見を最後まで聞き、納得したり理由を尋ねたりして対話を広げることができる。

- 中1年**
話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめること。

本時の目標 文章から受けた印象をもとに、互いの立場を明確にしながらか計画的に話し合い、考えを広げることができる。

本時における見方・考え方 互いの受けた印象を出し合い、相手の意見に納得しながら、意見や理由に着目して考えを広げることができる。



つかむ・見通す

解決活動（考えの形成）

まとめ

※留意・手立て

ふりかえり

- ◆前時を振り返る。
T: 前回の対話をしてみてどうでしたか？映像を見て振り返りましょう。
C: 対話が続かなかった。何を答えていいかわからなかった。
お互い意見と理由を言うだけで終わってしまった。
※うまくいかなかった点に注目して、本時の活動の意図を確認する。
- ◆めあてを確認する。

(友だちの考えを聞き、対話を広げるために)
話し方の工夫を見つけて、使ってみよう！

- ◆グッドモデルの映像や対話を例示した文章を見て、自分たちの対話との違いについて考える。
T: この映像をみて、どんなところがみんなの対話の仕方を違うかな？
※グッドモデルの映像を提示し、対話を例示した文章を掲示する。
C: 「なるほど」「わかった」という言葉を遣っている。
相手に質問している。
わからないことを詳しく聞いている。
最初の考えと変わったことを相手に伝えている。
- ◆対話を広げるための工夫や言葉を遣う意義について共有する。
T: なぜ、みんなが見つけた工夫や言葉を遣うといいのかな？
C: もっと相手の考えを知ることができる。
自分も相手も嫌な気持ちにならないように対話できる。
T: みんなで見つけたことを使って、もう一度対話してみましょう。
- ◆見つけたポイントを使って対話する。
※タブレットを使って対話を録画する。
T: 対話をしてみて、どうでしたか？最初の映像と比べて良くなったところはどこかな・
C: 納得する言葉が遣えた。
相手に質問することができた。
考えが変わったことを伝えることができた。

- ◆本時のまとめをする
対話を広げるためには、最初に自分の意見を伝え、理由を聞いたり詳しく聞いたりして、相手の話になんか納得しながら話し合うことが大切。
- ◆ふりかえり
※1回目の対話と2回目の対話を比べてのふりかえりや、今後対話をするときに取り入れていきたいことを書くようにする。